

平成 29 年第 1 回大多喜町議会定例会

7 月会議会議録

平成 29 年 7 月 21 日 開会

平成 29 年 7 月 21 日 散会

大多喜町議会

平成29年第1回大多喜町議会定例会7月会議会議録目次

第 1 号 (7月21日)

出席議員	1
欠席議員	1
地方自治法第121条の規定による出席説明者	1
本会議に職務のため出席した者の職氏名	1
議事日程	1
開議の宣告	2
行政報告	2
諸般の報告	3
会議録署名議員の指名	3
議案第40号の上程、説明、質疑、討論、採決	3
休会について	25
散会の宣告	26
署名議員	27

第1回大多喜町議会定例会7月会議

(第 1 号)

平成29年第1回大多喜町議会定例会7月会議会議録

平成29年7月21日(金)

午後 3時30分 開議

出席議員(12名)

1番	野中眞弓君	2番	志関武良夫君
3番	渡辺善男君	4番	根本年生君
5番	吉野僖一君	6番	麻生剛君
7番	渡邊泰宣君	8番	麻生勇君
9番	吉野一男君	10番	末吉昭男君
11番	山田久子君	12番	野村賢一君

欠席議員(なし)

地方自治法第121条の規定による出席説明者

町長	飯島勝美君	副町長	鈴木朋美君
総務課長	西郡栄一君	財政課長	君塚恭夫君
産業振興課長	吉野敏洋君		

本会議に職務のため出席した者の職氏名

事務局長	吉野正展	書記	金杉孝枝
------	------	----	------

議事日程(第1号)

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 議案第40号 平成29年度大多喜町一般会計補正予算(第3号)

◎開議の宣告

○議長（野村賢一君） 本日は、平成 29 年第 1 回議会定例会 7 月会議を招集しましたところ、議員各位を初め、町長及び執行部職員の皆さんにはご出席いただきまして、まことにご苦労さまでございます。

ただいまの出席議員は 12 名全員です。したがって、会議は成立しました。

本日、7 月 21 日は休会の日ですが、議事の都合により、平成 29 年第 1 回大多喜町議会定例会を再開いたします。

これより 7 月会議を開きます。

(午後 3 時 30 分)

◎行政報告

○議長（野村賢一君） 日程に先立ち、町長から行政報告があります。

町長。

○町長（飯島勝美君） 皆様、暑い中大変ご苦労さまでございます。議会の開会に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、平成 29 年第 1 回議会定例会 7 月会議を再開させていただきましたところ、議長を初め、議員の皆様方には大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

行政報告につきましては、6 月第 2 回会議以降のものでございますので、お手元に配付をさせていただきました報告書によりご了承をいただきたいと思います。

さて、今月発生をしました九州北部豪雨により、甚大な被害を受けられました皆様に対しましてお見舞いを申し上げますとともに、今なお避難されている皆様、復旧作業に従事されている皆様のご安全と被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

本日の案件は、一般会計補正予算として、九州北部豪雨で被害に遭われた福岡県、大分県への災害見舞金と、第 43 回大多喜お城まつりに要する経費を提出させていただきましたので、ご審議の上、可決賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

○議長（野村賢一君） これで行政報告を終わります。

◎諸般の報告

○議長（野村賢一君） 次に、諸般の報告であります。第1回議会定例会6月第2回会議以降の議会関係の主な事項は、お配りしました印刷物によりご了承を願いたいと思います。

次に、本7月会議につきましては、審議期間は本日1日とします。お配りしてあります議事日程に従って議事を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

◎会議録署名議員の指名

○議長（野村賢一君） これから日程に入ります。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第126条の規定により、

9番 吉野一男君

10番 末吉昭男君

を指名します。

◎議案第40号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（野村賢一君） 日程第2、議案第40号 平成29年度大多喜町一般会計補正予算（第3号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

財政課長。

○財政課長（君塚恭夫君） 議案第40号の説明をさせていただきます。

1ページをお開きください。

平成29年度大多喜町一般会計補正予算（第3号）は、次に定めるところによる。

歳入歳出予算の補正。

第1条は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ170万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ47億7,130万6,000円とするものです。

第2項は、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」によることを定めるものです。

それでは、次に、事項別明細書の2、歳入及び3、歳出により補正予算の説明をさせていただきます。

6ページ、7ページをお願いします。

2、歳入、款 19 繰越金、項 1 繰越金、目 1 繰越金 170 万円の増額補正は、今回の補正予算の財源として、前年度繰越金を充てたものでございます。

次に、歳出予算の説明をさせていただきます。

次のページをお開きください。

3、歳出、款 2 総務費、項 1 総務管理費、目 1 一般管理費 20 万円の増額補正は、平成 29 年 7 月 5 日からの記録的な大雨により発生した、大規模災害で被災した福岡県、大分県への災害見舞金でございます。

次の款 6 商工費、項 1 商工費、目 3 観光費 150 万円の増額補正は、本年開催の第 43 回大 多喜お城まつり出演者として、本多忠勝役の藤岡弘、本多忠朝役の渡辺正行両氏の出演等に 係る費用の一部として、お城まつり実行委員会への補助金でございます。

以上で、議案第 40 号の提案説明とさせていただきます。よろしくご審議くださるようお 願いたします。

○議長（野村賢一君） 説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

10 番末吉昭男君。

○10番（末吉昭男君） 8ページから9ページにかけてでございますけれども、観光費の観 光振興事業で負担金補助及び交付金ですね。お城まつり実行委員会の補助金について、 ちょっと確認も含めて質問させていただきたいと思います。

まず、お城まつりの開催日でございますけれども、過去には 10 月の第 1 日曜日は老川、 西畑、総元地域のお祭りとなっていてということがありまして、9月の最終日曜日にずつ と開催されているように記憶してございます。そこで、本年でございますけれども、ここ 2 回とも天候に恵まれなかったと。また、暑さも非常に厳しい時期であるということで、小学 生及び参加者への配慮として日程の変更が提案されまして、3月の実行委員会で多数決によ りまして、1票差で 10 月 1 日に決定したというふうに聞いてございます。それも、先ほど 申し上げましたけれども、老川、西畑、総元地区が当日、お城まつりじゃなくてお祭りがあ るということも承知の上で 10 月 1 日に決定されたというふうに聞いております。

その次の実行委員会におきまして、区長会から変更の提案があったと思うんですが、既に 日程がそこで決まっておったということだったので、変更はできないという話でそのまま だったと思います。

なぜ、10月1日なのかと、翌週の10月8日ではいけないのかと。10月1日につきましては、何回も申し上げておりますけれども、老川、西畑、総元地区のお祭り重なっていますので、参加者が少なくなってしまう。8日はどことも重ならないのではないかなと、私はちょっと考えておるんですけれども、本年ツール・ド・ちばがあるとか、せつかくの連休なのでもったいないとかというお話もあったようにも聞いてございます。

できれば、先ほど申し上げました理由からすると、暑さのほうも大分和らいでくるのではないかなというように考えますので、できればそっちに持って行っていただければなというふうにもちょっと考えました。まして、開催日が地域の祭りと重なってきますと、今申し上げましたけれども、参加することができませんし、親戚とか友人、お知り合いの方々をご案内することというのが、結局自分が出られませんので、お城まつりのほうに参加することが全くできません。

そういう中で、大多喜お城まつりというのを今まで開催してきて、本当に最近、大多喜のお城まつりということで定着してきていると思うんです。さらに最近、ことしで3回目になりますけれども、民間主導型ということで移行されてきて、その成果も出てきているんじゃないかなと。昨年も発表によりますと、その前の年に比べますと観光客のほうもふえているというような中で、非常に水を差すような話で申しわけないんですけれども、このままいってしまうと、この10月の第1日曜に日程がそのまま継続で、来年、再来年このままでいってしまうと、大多喜町のお城まつりが、大多喜町でなく大多喜地区のお城まつりになりかねないんじゃないかという、ちょっと懸念されるころじゃないかなと私は考えます。

ことしなんですけれども、中には既に今まで一般寄附ということで、各地区から寄附金を集めていたと思うんですけれども、この寄附金を、うちらは参加できないからどうしよう、ことしはどうしようとか、うちのほうは出すの、出さないの、それとも半分にするのというような声も聞こえてまいっております。

そういう中で、43回、ことしのお城まつりですね、10月1日で既に決定して準備のほうも進んでおります。見ますとポスターのほうも張られております、町なかに。できております、立派なポスターが。そういう中で、ここのそういう反対といいますか、各地区お祭りが重なっている中で、日程を10月1日に決定したということで、そういう方々の理解を得られるのかと、150万円の補助金をさらにそこへ追加することによって、理解を得るのは非常に難しいんじゃないかなと。現計予算の中であればそんな異論も出ることもなかろうと思っておりますけれども、さらにそこへ150万円追加するということになると、いろいろとそういう意

見も出ているんじゃないかなと思うんですけども、そういうことはどのようにお考えか、ちょっとお聞かせ願えればと思います。よろしくお願いします。

○議長（野村賢一君） 産業振興課長。

○産業振興課長（吉野敏洋君） 日程の決定理由というところでございますけれども、議員のほうからお話ございましたように、3月10日、前の実行委員さん方によりまして、まず実行委員会のほうで決めていただいたというところでございます。そのとおりでございます。

このときにも、やはりそのような地区のお祭りとはやはりかぶっていると、そういうお話もございました。しかしながら、前の委員さんの中では、最終的に前夜祭につきましては9月30日、本祭につきましては10月1日でよかろうと、そういう結論で決定していただいたというところでございます。確かに、各地区の西畑、総元地区のお祭りとぶつかっているというところがございますけれども、区長様方のご意見も特に支障はないだろうと、そういう委員会の中でのご発言もございました。

そして、ことしの実行委員会でございますけれども、先ほど議員言われたように、5月29日に新委員さんによりまして、再度日程につきましてご協議いただきました。先ほど言われたようにさまざまな意見が出ております。各地区で祭礼に再度重なりますよ、重なった場合につきましては、地区の子供たちがやはりお城まつりに出られないのではないかと。中には過去から9月の最終土日として決まっているのに、なぜ今さら変えるのかと、そういうご意見もあったところでございます。はっきり言いましてそのようなご意見を賜りました。

しかしながら、最終的に実行委員長におかれましても、各地区に最悪出向きましてでもご理解を願いたいと、願っていきたくと、そういうお話もございまして、前夜祭を30日、本祭を1日ということでご理解をいただきまして、最終的に合意をいただいたというところがございます。

あと寄附金のほうのお話もございました。確かに新委員さんにおかれましても、寄附金につきましても、地区のお祭りと重なってしまうので、寄附金についてはちょっと考えなければいけないと、そういうお話も確かにございました。

今回の1日というところがございますけれども、民間の実行委員会制になりまして、さらに子供たちのこの暑さに対する手段につきましても、やはり考えていたところがございますが、先ほど議員のほうからも言われました、10月の第2日曜日になりますでしょうか、10月7日、8日には、先ほど言われたようにツール・ド・ちば、これのほうもやはり予約がございまして、既にその時点では駐車場の予定地として、実施、いつもしておりますけれども、

B & Gの海洋センター側の大きな駐車場、総合グラウンドがございますけれども、そちらもツール・ド・ちばのほうで使用したいと、そういう予約が入っておりまして、その時点では8日のほうに、7、8という形で移動することがちょっとできなかったというところが本当のところでございます。

以上でよろしいでしょうか。

○議長（野村賢一君） ほかにありませんか。

10 番末吉昭男君。

○10番（末吉昭男君） 今、概要、流れをちょっとご説明いただいたんですけども、今ツール・ド・ちばの開催もありましたけれども、それは千葉日報さんのほうでやっているんで、その辺は変更は可能ではないかなと思うんですけども、それはそれとして、全体的に私が申し上げた中で、今回補助金を出すということに対して、約半数の人が反対されているというか、約1票差で10月1日に決まっているわけで、その人たちへの理解をどのように考えているか、その辺をちょっとお聞きしたいんですけども、申しわけございません。

○議長（野村賢一君） 産業振興課長。

○産業振興課長（吉野敏洋君） 確かに9月30日、10月1日の賛成の方が9名、10月7日、8日の開催の賛成の方が8名ということでございます。

その1票差というところでございますが、確かにこの1票差で7、8のほうが否決されまして、30、1日が採用されたというところでございますが、確かに7、8というのは、やはり子供たちにとっても非常に祭りに参加しやすい環境の時期ではないのかというふうには考えておりますけれども、実行委員会のほうでの決定でございますので、これにつきましては従うしかないのかなというふうにご考慮しております。

しかしながら、今後、7、8、日程につきましては流動になるかもしれませんが、10月の第2日曜の前後という形で、これは進めていく方向で実行委員会のほうにもご検討願うような形をとっていきたいなというふうにご考慮しております。

○議長（野村賢一君） ほかにございませんか。

9 番吉野一男君。

○9番（吉野一男君） 末吉議員の関連で一応質問いたします。

私も総元でありますので、そういう今末吉議員が言ったとおり、日にちの問題が一番重要だと思うんですけども、これは町挙げての祭りでありますので、ぜひこれは大多喜町の旧5村1町が一緒になってやるのが一番ベターだと思います。

それと、昔は結構そういう形で全体でやっていたんですけども、最近は特にそういう関係で大多喜の祭りじゃないですけども、そういう形の傾向になっております。そういう点で、あくまでもそういう形じゃなくて全体で皆さん、各地区が日程の日にちがいいような形で扱ってもらってそれで日程を決めてraitたいと思います。これは実行委員会云々もあるんですけども、これはまず執行部の問題ですね。ある程度提案してもらって、今言った各いろいろ暑さ対策もあるでしょうけれども、それといろいろな日にちを決めないと、各町外から来る人も困っちゃうわけですよ。

大原のはだか祭りみたいに日にちが決まっていればいいですけども、大多喜の場合は流動的になっていますので、いつやるかわからない。実行委員会で決めないとわからないという状況であります。そういう関係になると、やっぱり町外の来る人も大変だと思いますので、日程の調整もあると思いますけれども、これはあくまでも町の執行部が、こういう形でお願いしたいということで、それを実行委員会に投げかけて、その日程でお願いしたいということでやったほうがいいと思うんですよ。実行委員会に任せるときに、実行委員会の中の実行委員だけで決めるわけですから、ほかの方は、実行委員会に付託されているわけですけども、それにしてもやっぱり実行委員の中で決めるということ自体がいかげなものかという考えになります。

それと同時に、実行委員会の中でも各みんな各地区のあれを話し合いをした中で決まったものを持ってくればいいんですけども、なかなかそういうわけにいかないと思います。そういう点で、やっぱり町の執行部から日にちをある程度基本として、大原のはだか祭りみたいな形で日にちをきちっと決めて、10月でもいいですよ、10日1日は総元と西畑の祭りがありますので、それを抜かしてもらってほかの9月の前でもいいし、9月の今までどおりでもいいし、今言った10月の7、8ですか、そういう形でもいいですけども、とりあえずきちっと日にちを決めてもらって、それでやっぱりやらないと、これからそういう問題がいろいろ起きてきます。やっぱりこれは日にち的には流動的じゃなくてきちっと町の方針として、こういう形で実行委員に投げかけて、こういう形でやってもらいたいと、そういうことで要望しておきます。これはあくまでも。

私はたまたま前回もお城まつりの委員になったんですけども、そのときにもある程度9月の末ということで決めてやったばかりなんですよ。そういうことで最初からそういうことになっていけばいいんですよ。そういうことでずれちゃって、また各委員会で決めちゃってそういうことになっていますので、そういうことじゃないような形で、今後ぜひこれは町の

執行部として対応していただきたいと思います。

それと、今回の1日の祭りなんですけれども、藤岡弘さんと渡辺正行さんということをお願いするという形であります。150万円の予定で上がってきておりますけれども、これはいかがなものか。今まで前例として補正を組んだことはないと思うんですよ。あくまでも補助金自体で一本でやっていたと思います。

その中で寄附金を集めてもらって、特別寄附金とかそういうものを集めてもらった中でやっていたと思うんですけれども、今回何でそういう、金額が大きいからなんでしょうけれども、藤岡さんは2回になりますよね。前回と今回になりますので、やっぱり同じ人じゃなくて、同じ人というのもいいんですけれども、やっぱりある程度藤岡さんになると金額も高くなりますので、そういった関係でやっぱりそうであれば安いところをお願いするとか、1回来ていますので、申し送ってもらって、今度は次の何日か置いた中で藤岡さんに来てもらうとか、そういう関係でとってもらったほうがよかったと思うんですよ。

あくまでも実行委員会の中で決めているから2人で、じゃあ10人頼みますけれどもということになれば、補正を上げますからということになっちゃいますので、これはどんどんどんどん金額的に青天井になっちゃうわけですよ。

だから、あくまでも金額はまず執行部から出した補助金でやってもらって、やってくださいと言って、そのほかに出た分については、あくまで特別寄附金や一般の寄附金を募って、それが実行委員の役目だと思うんだよ、あくまでも。実行委員で集めてもらって、そういう足りない場合は、いろんな寄附金をお願いしてやってもらうというふうにやらないと、なかなかいかないと思う。あくまでもこれはやっぱり実際的にはどんどんどんどん高額になってくると思うんですよ、こうなっちゃうと。ある程度線を決めた中で、これ誰々に頼むと、その範囲内でやってくれと。町から補助金はこれは出せませんからということでやっておかないと、それをやったからといって費用対効果がどうなっているかということを知られてもわからないと思うよ、課長に。実際費用対効果を出せますかということになるんですけれども、それは難しいと思うんです。実際的に。

それで結局お城まつりがあると、大多喜の町なか自体が、逆を言えば一般の商店が結局商店に余り行かないんですよ。だけど売り上げも上がらなくなっちゃっているんだ、今現在。

○議長（野村賢一君） 吉野議員に申し上げます。

質疑しているんですけれども、何を今質問しているのか、余り内容がよくわかりません。

○9番（吉野一男君） わかりました。

そういうわけですね、実際補助金を決めてもらってきちっと補助金を出してもらいたいと思うんです。その金額を決めてもらって、それ以上出さない。あとは一般寄附金でやってもらいたいとか、特別寄附金を集めてもらって運営してもらいたい。そういう形で、まず執行部から各委員会に投げかけるという形で、それでお願いするような方法でやってもらいたいと思いますが、いかがか、課長をお願いします。

○議長（野村賢一君） 産業振興課長。今の2点ぐらいあったと思うんですけれども、よろしいですか。

○産業振興課長（吉野敏洋君） はい。まず、日程の件でございますけれども、確かに流動的だったというお話はそうだというふうに感じておりますが、これはやはり子供たちのことを考えまして、実行委員会の中でも子供たちのことを第一に考えて日程の変更という結論に至ったというふうに、私も聞いております。

今後、できる限り同一の日程、同一の日程といいますか、同一の週というんでしょうか。10月の第2週とか、9月の従前のおりの第4週というんでしょうか、土日にかけてということで、実行委員さんのほうに要望していきたいというふうに考えておるところでございます。

あと、この補助金の関係でございます。補助金のほうの限度額というお話も先ほどございましたが、町の補助金交付要綱のほうに一応規定がございまして、町のお城まつりに係る経費というところで補助金の限度額、一応690万円以内という規定もございます。その規定を守るというのは当然の話でございますが、確かに補助金以外の部分で実行委員会が寄附金等を集める、これは当然のお話というところで、現在実行委員長も寄附金を町内、町外、また実行委員さんにおかれましても、各町内の企業、現在も本当に回っていただいているところでございます。

ことは、先ほどのお話のとおり、藤岡様、さらに渡辺様という2大スターをお呼びするというところで、総経費的に当初の経費よりはおよそ255万円の増額が見込まれておるところでございます。この中で、実行委員会として最大限に頑張りをまして、寄附金を集めてまいりましょうと、そういうご協議もされたところでございまして、目標額につきましては前年を上回る額で100万円を目標にしているところでございます。そうしますと、残りの150万円がどうしても不足するという判断がございましたので、町のほうから何とか150万円を補助していただけないかと、そういうところのお願いがございましたので、今回の補正に計上をさせていただいたところでございます。

さらに費用対効果というお話がございました。確かに費用対効果、現時点では把握できません。しかしながら、今後町もこの150万円、藤岡様に加えてさらに渡辺様、お二方今回お城まつりに参加していただくところがございますけれども、従前のイベントの踏襲でなく、町に観光客の方がいらっしゃった時点で、お金をとにかく落としてもらおうと、そういう企画も実行委員会の中で、現在考えているところでございます。

まだ詳細につきましては、決まっておらないところでございますけれども、従前でございますけれども、お城まつり広場の中で大多喜町の朝市組合等をお願いいたしまして、特産品、特産物、農産物、こちらの販売を以前行ったと、そういう実績がございました。そして、去年の中学生議会でもそのような提案をいただいたところでございます。実行委員会のほうにその旨投げかけたところ、それについてはやはりやりましょうと、そういうお話を受けて、前向きなご回答をいただいているところでございます。今後、その実施方法、これにつきまして実行委員会のほうでさらに詰めていきたいと。地元にお金が落ちるようなイベントにしていきたいと、そういうふうにご検討いただいております。よろしくお願ひします。

○議長（野村賢一君） 9番吉野一男君。

○9番（吉野一男君） 実際にお城まつりが一番、大多喜町としても重要なイベントであります。それにつけて、やっぱり地元が活性化しなきゃいけないと思うんですよ。それにはやっぱり地元商店が活性化した中で、それとタイアップした中で運営していくと。と同時に、町民のいろんな声を聞きながら、そういうものを作っていくというのは一番重要だと思います。今課長の答弁だったと思いますけれども、そういうことでぜひ、これからそういう形で町民と一緒にやってもらいたい。

それで、やっぱり町内にそういう点でメリットがないとやった意味がないと思うんですよ。そういうものを十分入れた中で、今後のお城まつりの運営をしていただきたいと思います。ちょっと要望しておきますので、ぜひそういう点でよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（野村賢一君） 産業振興課長。

○産業振興課長（吉野敏洋君） ありがとうございます。

先ほど申し上げましたけれども、実行委員会のほうも場所をまだ特定しておるところではありませんので、これからそういう何とっていいのか、イベントというんでしょうか、例えば沿道を武者行列、回っていただきますけれども、その沿道のある程度の場所場所で、1

つつつできれば、そういう物販が入ってくるようなスペースがあれば、そういうところに出店していただく。また、お店の前でスペースをお借りできるのであれば、そういうところでそういう物販を進めていただくということも、これも当然ありのお話だというふうに考えておりますので、実行委員会のほうに、さらにそういうお金を落としていただく、商店街のほうにもお金が落ちる、そういうお祭りをぜひ企画していただくように、さらにお話のほうを進めてまいりたいと思います。

○議長（野村賢一君） 議員の皆様申し上げます。

日程に関しては、民間に委託したお城まつり実行委員会が決定しました。それに対して、今吉野議員と末吉議員が質問して、産業振興課長ができるだけ答弁した。我々実行委員会に出ていなかったもので、民間の人たちが決めたことですから、余り議会から騒ぐということはいかがなものかと思えます。本来のきょうの補正に対して、少し議論していただければと思います。よろしくをお願いします。

ほかにございませんか。

6番麻生剛君。

○6番（麻生 剛君） 今、末吉議員や吉野一男議員のご指摘も非常にためになりました。

私自身が大多喜お城まつり、これを記憶しておるのは若い青年の時代であります。日本とメキシコとの関係の深い当町においては、メキシコの独立記念日をまず基軸としてやったと。そして大原のはだか祭り、先ほど吉野一男議員が言いましたけれども、これはいわゆる大原日在の齋藤丹後神が海中より火の玉をとり、それを静めたことによってはだか祭りが行われたという、そういう古事があると、そういう古事をもとにしたものを忘れずにお城まつり等にも生かしていく。

日程が決まりましたんで、かつて私どもが若い時代、観光協会の小倉寛氏という方が旅行社を回ったり、そしてはとバスめぐりをしたりと、すさまじい民間からの本当の力を出した。私ども議員も全力でそれを応援した。また、こちらに今同席しております末吉昭男議員も当時最年少の係長としてご協力していただいた、そういう経緯があります。これは逆に言うと産学官民一体の祭りであったと。

さて町長、ここでちょっとお尋ねしたいんですけども、9月30日、10月1日に向かって、例えば高速バスやあるいは旅行社やあるいはさまざまな関係各位において、町としてどういような施策で今回考えていらっしゃるのか。私はこの新たな補正予算、この程度の額はふやしても私はいいと思います。そして、今後町が活性化する、あるいは町の知名度を上げる

んであればそれはいいと。それで、町として人的支援やあるいは企画力の、そういう支援をどのように考えているのか、トップである飯島町長よりお答えいただきたいと思います。

以上です。

○議長（野村賢一君） 町長。

○町長（飯島勝美君） このお城まつりにつきましては、今まで確かに官でやっておりました。それを3年前から、これはやはり地域の皆さんがやることによって、この祭りは盛り上がるであろうということの中で、民のほうにお願いをして、皆さんが今積極的に本当にボランティアの活動の中で頑張ってくださいしております。

当然役所が、私ども町が手を引くということではなくて、黒子の形で今協力をしております。むしろ実際に活動する部分というのは、役所が相当動きます、現場ではね。そういうことでございますので、ある意味町が企画するというと、大体マンネリ化をするということの中で、やはり民の発想を取り入れたほうがいいたろうということが、民主導ということ動いたところでございます。

これからまた、今さっき課長の答弁でもありましたけれども、いろいろ実行委員長含めて委員の皆さん方も、こういうことを改善したほうがいいではないかと、いろいろ提案されているようでございます。ですから、町もそこは一緒に応援できるところは応援してまいりたいと思いますし、皆さんもやっぱり思うところはこのお祭りを、町のためにやはり効果のあるようなものにしたいというのが実行委員会の思いでありますので、それは私どもも一緒に思いでございます。ですから、我々も支援できるところは一生懸命支援してまいります。そういうことで頑張ります。

○議長（野村賢一君） ほかに何かありますか。

6番麻生剛君。

○6番（麻生 剛君） 町長のご答弁、しっかりと受けとめ、そして今後に生かしていただきたいと思います。

それでは、お城まつりのこの問題、私はこの程度の額は増額しても、決して町民はこれに対して非難はないと思います。それはなぜかということ、私どものふるさとがこの祭りによって一つになると。先ほどご指摘のように、多少今回日程の件でいろんな問題があったかもしれませんが、これは次回に生かすということですね。それともう一つは、これによってのPR効果、そういうもの。

それからもう一つ言いたいのは、やっぱり御宿町と大多喜町がメキシコとの関係があって、

特に御宿町では先ほど言ったように、本多忠朝公の時代にいわゆるドン・ロドリゴ公が難破して、そして当時岩和田海岸の非常にすばらしい方々の献身的なあれによって命を長らえ、そしてまた母国に帰ったと。そういう歴史的な古事があると。ですから、こういう問題も含めまして、一つのストーリー化していく。その上でお祭りもタイアップしていく。ですから私は、タレントなどに関しても、これはやっぱりスペイン系のあるいはメキシコ系のあるいはサッカーでもいいや、そういうやっぱりちょっと粋な感じを演出していくことも必要だと思うし、これがひいては簡単に言えば映画化の道にもなるんですよ。

このヒューマニズムの世界を体現した男、本多忠朝公。そして非常に繊細な神経を持って、酒に頼らなければ人を殺せなかった、戦に出られなかったという、そういう、よく同僚である末吉議員ともちょっとお話ししましたがけれども、酒封じの神とか、いろんなことを言われる、そういう大多喜の立派な殿様がいたと。ヒューマニズムにのっとった殿様がいたんだと。こういうものをお城まつりでもうちょっとPRしていく。教育委員会もその辺よく知らん人たちが多いいんじゃないかなと思うんですよ。

ですからその辺の人選も含めて、今後祭りは何のためにあるのか、もちろん経済効果も必要、しかし文化的そしてそういう国際的な、そういうものも含めてPRしていくことによって、大多喜の祭りが単なる田舎の祭りではなくて、国際フェスティバルまで持っていける、その一つのきっかけになると思います。

私協力しますから、ひとつ私のところに門をたたいて来なさい。そういうことをまず執行部の皆さんにはお伝えしておきたいと思います。

以上です。副町長あたりからご答弁いただければありがたいと思います。

○議長（野村賢一君） 今のは質疑ですか。

○副町長（鈴木朋美君） じゃ、今の麻生議員の非常に、私も聞いていて、ドン・ロドリゴの関係は、今大河ドラマの関係で本多忠勝、忠朝の誘致活動をやっているんですけども、それだけでも御宿町との連携はやっておりますけれども、今話されたお祭りの中でメキシコとの関係は、中でもメキシコ大使館のご家族をお招きして、小学校のホールで交流会をやっておりますけれども、お祭りの中で今言ったように、メキシコ人が本当にドン・ロドリゴになって歩いてもらうというようなこと、メキシコのグループというか団体というか、そういうロドリゴの一行というような形のものもお祭りの中で、そういう体系づけができればおもしろいなど、今思いましたので、この辺はまた実行委員会もありますけれども、そんなことも渡辺正行、また藤岡弘もいいんですけども、そういう形の中のことと考えてみると、確

かにおもしろいかなと思いましたが、その辺はまた、今後実行委員会と話し合いながら進めていければなというふうに思います。

以上です。

○議長（野村賢一君） ほかに。

11 番山田久子君。

○11番（山田久子君） 少しお聞きすることが、先ほどのとダブるようなところもあるかもしれませんが、よろしく願いいたします。

当初予算のお城まつりへの補助金金額が実行委員会の中で不足するようになった中で、今回お二人の芸能人の方をお呼びするという事に決めた、その理由というのはどういうことなのか。普通であればお金がなければ1人ということになると思うんですけども、なぜ2人なのか。またその中で実行委員会さんの中から町への補正金額の要望がなされまして、今回上程をされておるわけですけども、これを町として上げられた理由というのは、町はどのように考えてこちらを上げてこられたのか、この辺をお伺いしたいと思います。

○議長（野村賢一君） 産業振興課長。

○産業振興課長（吉野敏洋君） まず、タレントさんを2人にした理由というところでございますが、まず昨年のお城まつり終了後に、ことしに向けた、43回に向けましたタレントさんのほうの内部検討、委員会での検討を行っていただいたところがあるところであります。そのときには何名かの方をお願いしようかというところで、ある程度の名前の方が上がったところではございます。そして、事務所のほうに内諾といいますか、内々で出演が可能かどうか、そういうところも伺ったところでありましたけれども、いかんせんスケジュールが合わない、そういうところで断られてしまったところがございました。

そして、以前にも出演をいただきました渡辺正行様にも、その後出演が可能かどうかという検討を実行委員会の中でも行ったところでございます。その時点では渡辺様のほうもやはりスケジュール等がちょっとわからんというお話もあったところでございますが、従前いすみ鉄道の観光大使ということで鉄道のほうにも、また町のお城まつりのほうにも2回ほど出ていただいているところでございますので、検討しましょうと、そういうお話をいただいたところでございました。

その後、ことしの6月の下旬になるんですけども、昨年NHKの大河ドラマで真田丸のNHK側の制作担当者、ほとんど責任者に近い方なんですけれども、その方から急に連絡が町のほうに入りまして、昨年武者行列に出演していただきました藤岡様が、本多忠勝に非常

にご関心があるというところで、以前大多喜町のほうにも来ていただいて、大多喜城も墓所も見ていただいたと。そういうところで、武道家としての藤岡様の考えにマッチする武道家であった忠勝様というところで感銘を受けたというところで、去年来ていただいたというところなんですけれども、ことしもそういう方向は事務所のほうとしても、ご本人も考えているという情報があるよという内々の情報をいただいたところでございます。

そこで、委員会としまして、100%決まったところのタレントさんがいらっしゃいませんでしたので、それでは藤岡様というラインが出てきたんだけれども、それをどうしましょうかというところで協議をしていただきました。その結果、藤岡さんにもぜひ出演していただきまして、再度大多喜のお城まつりを盛り上げていただだけませんかというお話になりましたので、ここで渡辺正行様にもお話をかけておるところでありましたので、お二人のご参加をぜひお願いしていこうと、そういう形になりまして、今後の町の観光振興、さらには経済の発展関係、そちらでお二人のお力添えをいただければということで、委員会としての結論に至ったというところでございます。

また、補助の理由というところでございますけれども、その後、藤岡様の事務所におかれまして出演料のほうの交渉を実施させていただいたところなんですけれども、通常藤岡様のほうでは、最低 250 万円、通常 30 分くらいの講演であれば、普通であれば 150 万円というかなり高額のご回答をいただいたところでございまして、委員会としましては、とてもとてもそのような金額ではご誘致できないというところで、委員会として予定しておりましたが 100 万円で何とかかならんかと、そういう折衝を積み重ねていったところ、何とか中間の 125 万円で何とかなるという会社側のほうのご検討を、今いただいております。そういう形で、会社側のほうで検討していただいたというところがございます。

さらにまた、渡辺様につきましても、出演料につきましては、過去 2 回につきましては 10 万円というところで、いすみ鉄道の観光大使、そういう形で町のためにも非常にお願いしているところが大きでございますけれども、通常渡辺様は、やはり 50 万円は下らない出演料をお願いしているというお話も頂戴したところでございますので、ことしは 20 万円で何とかお願いしようと、そういう実行委員会さんのほうのお考えがございました。

そのほかにもお二方をお呼びするに当たりまして、各種の不足する部分が出てまいりました。その部分については、昨年はNHKの大河ドラマによりまして、藤岡様にご出演していただいているというNHK効果が、これは非常にあったと思います。それで皆様方が、約 3 万人に及ぶ観客の方がご観覧していただいたというふうに考えておるところでございますが、

ことしにつきましては、NHK効果もちょっと難しいというところがございますので、町のホームページ、さらにはフェイスブックで従前から情報発信しておりますけれども、それにさらに加えて、ラジオ放送のベイエフエム、さらには千葉テレビ放送にもコマーシャルを打っていったらいかかと、そういう委員会のほうのご意見もございました。

さらに昨年の沿道のパレードにおかれましては、大変な人出になってしまいまして、警備のほうやはり手薄になってしまったところが非常に出ております。けが人があったんではないかなというところもございまして、たまたまお城まつりの会場の中でも、やはりちょっと馬に当たってしまって、あとで大けがをされた方もいらっしゃいました。このような形で警備関係も非常に手薄なところがありまして、町職員さらには実行委員会でも皆様方に出ているんですが、どうしても手薄なところも出てまいっておるところでございますので、そのような警備関係についても、さらに目を光らせるということで、委託関係も少し増強していきたいと、そういうご意向が委員会のほうでもあったところがございます。

そのような形で、先ほども申し上げましたが、総額おおよそ255万円の経費がかかってくるという形でございます。

先ほど申し上げましたが、委員会の中で寄附金という形で、各企業様のほうに、昨年特別協賛金を頂戴いたしました企業様に、さらに2回もらうわけには、ことしいきませんので、1回という形で寄附金を今後実行委員長様も含めまして、頭を下げていただいて、ご寄附のほうを頂戴してまいりたいというふうに実行委員長さん申しておりますので、その不足額というところで町のほうに150万円、何とかお願いしたいと、そういうお話がございました。

補助理由につきましては、その点を勘案させていただきまして、町としても応援していきましょうというところの気持ちを酌んでいただければというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（野村賢一君） 11番山田久子君。

○11番（山田久子君） 今のまずタレントさんの件でお答えいただきましたけれども、今のお話をお伺いしていると、今後もお二人という可能性が出てくるのかどうか。その辺をお伺いしたいと思いますのと、昨年度大変多くのお客様にお見えをいただきまして、駐車場の問題があったかと思えます。この辺はことしはどのようにお考えになっているのか、この対応、体制についてお伺いしたいと思います。

○議長（野村賢一君） 少し短目にきちんと。余り長いと誰も聞いていないかもわからないから。

産業振興課長。

○産業振興課長（吉野敏洋君） 今後のタレントさんの2人ということでございますけれども、現段階では決まっておられませんので、これは実行委員会のほうにご考慮いただくという形でお願いをまいります。

あと駐車場でございます。さすがに去年は雨が降った後でございました。予定しておりましたグラウンド、土のグラウンドが使えなかったというところで、非常に観光客の皆様にご迷惑をかけたところは重々承知しておるところでございます。ことしは、そのようなことがないように形で、さらに実行委員会といたしましても、施策を考えていきたいというふうに委員会といたしましても考えておりました。

以上でございます。

○議長（野村賢一君） ほかにございませんか。

4番根本年生君。

○4番（根本年生君） 先ほど課長のほうから、今度タレントを2人呼ぶことについて町の相乗効果というんですか、活性化も図れているいろんなイベントもやるよと、町に経済効果もあるよという力強い発言がありました。それで城まつりの要綱の中に、町民の熟成を図ることが第一の目的とすると書かれていると思います。町民の熟成というのは、町民の融合を図ることですね。大多喜町広いですから、城まつりを行うことによって、町民同士の友好を図るということは大きな課題があると、それについても図れるんだという、強い答弁があったと思っています。

その辺をもう一度簡潔に力強く述べて、先ほど議長からもありました、ちょっと長くなっちゃっていたんで、簡潔にその辺を強く答弁してもらいたいのが1点と、もしそういったことであれば、今、一部ということで150万円、全体で250万円かかるということです。今地域のコミュニケーションが薄れていく中で、大多喜町を一つにするということは、非常に重要なことだと思うんですよ。それが城まつりをやることによって、一つにまとまることのできるのであれば、150万円じゃなくて250万円全部出しちゃったらどうですか、町で。

私がそれを思うのは、去年も特別寄附ということで、ある特定の企業たちに負担をかけました。大きな企業、大多喜町にとって非常に貢献なさっています。その企業がなくては大多喜町は成り立っていきません。そういったところにあえて私は特別寄附という形で、お金をもらいにいくという部分についてはどうかと。これが1年限りではなくて、多分大きなビジョンの中で、5年、10年先を見据えて、ことしはどうしてもこの2人を呼ぶことが必要

なんだという観点でやっていることだと思うんですよ。ことし1年限り150万円ということじゃなくて、5年、10年、城まつりのこと、大多喜町のことを考えた上で必要だということであれば、来年も再来年も特別寄附ということはあるじゃないですか。そういったことはもうやめて、必要であれば町で全部出したらどうですか。

その2点をお聞きしたいと思います。

○議長（野村賢一君） 産業振興課長。

○産業振興課長（吉野敏洋君） 町の補助金交付要綱に、住民の連帯感を醸成するためにというふうに規定されております。実行委員会といたしましても、町民の連帯感、これは当然醸成しなければならないというふうに実行委員長も申しておりました。これは、今後も実際にこれは醸成していくべきものと、私のほうも思っておりますので、実行委員会にもこの旨お話をさせていただきたいと思えます。

次の負担につきましては、補助金の件につきましては、財政課長のほうからお願いします。

○議長（野村賢一君） 財政課長。

○財政課長（君塚恭夫君） 今の負担、250万円に係る分、町のほうでというお話なんですけれども、確かに町のほうで全てそういった負担のほうをできればよろしいんですけども、ほかにもやらなければいけない事業とかいろいろあるということと、あと町の財政状況も決して余裕があるというわけではないということでもありますので、その辺についてはご理解いただきたいと思えます。

また、今後そのように、毎年のように高額な補助金を一つの事業に対して出すというのは、ほかの事業のこともありますので、できるだけことは実行委員会のほうで一生懸命やってくれているので、町のできる補助はできるだけやりたいとは思いますが、満額出すということは、今後どのようにっていくのか、そのときの状況によって検討していきたいと思えますので、ご理解いただきたいと思えます。

以上です。

○議長（野村賢一君） 4番根本年生君。

○4番（根本年生君） 財政事情もわかります。私が言いたいのは、そういったことを特定の人に負担を求めていいのかと。幅薄く広く、町民みんなからとか、そういったところから寄附をもらうというのは、それはそれでいいと思えますよ。恐らく今考えているのは、特定の企業にプラス幾らかわからないけれども、去年の例なんかだと、プラス10万円ぐらいもらっているんじゃないでしょうか。

そういった特定のところにこういった負担を求めていいんですかと。それとも新たな寄附を新たな分野、今まで回っていったところに寄附を集める努力をして、そこから新たにもらうとかということであれば、それはそれでいいでしょうけれども、私は特定のところにそういった負担を求めるといことは、まして企業であれば大多喜町にとって非常に貢献なさっています。恐らく行けば出してくれると思うけれども、そういったところにそういった負担を求めていいのかと、もっと幅広く薄く、あるいはもっと新しい分野を、今まで回っていなかったところに分野を広げて、そこからもらうと。そういった形にすべきではないかと思いますが、いかがですか。

○議長（野村賢一君） 今、町で寄附金もらっているの。実行委員会でしょう。

産業振興課長。

○産業振興課長（吉野敏洋君） 実行委員会では、議員のほうからお話がありました新しい分野、その分野につきましても、町のほうに情報提供していただいて、常に情報を更新しながら新しい企業のほうにも協賛金、もしくは寄附という形でお願いに行っております。

○議長（野村賢一君） 4番根本年生君。

○4番（根本年生君） すみません。ちょっと勘違いがあったみたいで、申しわけございません。

ただ私はさっき言ったように、ある特定のところにそういった負担を求めるといことはどうなのかなと。求めるのであれば幅広く薄く新しいところからもらうという形で寄附を集めるように、役場はこれは関係ないと言われれば関係ないかもわからないけれども、ある程度関連していると思いますんで、その辺でお願いしたいと思います。

○議長（野村賢一君） ほかにございませんか。

1番野中眞弓君。

○1番（野中眞弓君） 芸能人招致の事業については、ことしの場合は先ほどの説明を聞きますと、前年度から芸能人を呼ぶということは決まっていたんですね。そうすると、当初予算の中で芸能人招致のための費用というのはとってあったと思うんですが、それは幾らなのか。今回、2名になったことによる増額だということなんですけれども、その全体、補正予算も含めて今年度は芸能人招致に対しての費用は幾らになるのか。

それから、もう去年終わったことなんですけれども、去年は幾らかかったのか教えてください。

○議長（野村賢一君） 産業振興課長。

○産業振興課長（吉野敏洋君） まず当初でございますけれども、当初は芸能人招致で実行委

員会が予定しておりました出演料につきましては100万円でございます。そして、全体の額ということで、その100万円を含めまして、関連の経費といたしましては305万6,000円になります。

さらに昨年、28年度の実績でございますが、藤岡様をお呼びした経費、NHK等に支払った部分で275万3,000円になります。

以上でございます。

○議長（野村賢一君） ほかにございませんか。

5番吉野儋一君。

○5番（吉野儋一君） きょうちょっと私資料を置いてきちゃったんですけども、去年の会計報告、町の広報と、各町民に回覧板で決算報告が出たんですよ。それをちょっと事務局のほうありますか。ないよね。

それと、去年は藤岡さんは1人じゃなくて、殺陣をやる人、それ一式でもって今言った金額だったんですよ。馬も自分の馬でないといけないということで、それを含めて今言った270万、そういう金額。去年の金額とことしの渡辺さんと2人、今度は藤岡さん1人なんでしょう。馬は一宮の乗馬クラブの馬を借りるということで、その会費ができれば皆さんに本当は欲しかったんだな。またそれはいいとして、問題はことしのお城まつりの予算というか、予算書みたいのはありますか。その辺がちょっと議員もわからないから対比のしようがないんだよね。

だから一応やることは決まっちゃってといるんだから、町が補助金を出すか出さないかということなんだろうけれども、その辺の資料を、やはり去年はこれだけかかって、ことしはこうだということ、やはり皆さんが判断できるような資料を出してくれないと、ちょっと私置いてきちゃって申しわけなかったんですけども、そこら辺がね、ことしの予算が総額幾らかそこら辺はわかりますか。

○議長（野村賢一君） 産業振興課長。

○産業振興課長（吉野敏洋君） ことしの予算につきまして、実行委員会の予算書でございますが、例年どおりでございます、29年当初1,100万円でございます。

（「ポスターから全部やって」の声あり）

○産業振興課長（吉野敏洋君） はい、当初予算ですね。当初予算は1,100万円。

（「今までどおりという感じだね」の声あり）

○産業振興課長（吉野敏洋君） そうですね。

(「ポスターから全部、一切合切」の声あり)

○産業振興課長(吉野敏洋君) そうです。全部込み込みです。

(「そういうわけだそうです」の声あり)

○議長(野村賢一君) ほかにございせんか。

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議あり」の声あり)

○議長(野村賢一君) 討論省略に異議ありますので、これから討論を行います。

初めに、本案に反対者の発言を許します。

1番野中眞弓君。

○1番(野中眞弓君) 私は、基本的には反対の立場から討論させていただきます。

お城まつりが年々町民の関心が低下していく中で、去年芸能人の招致で爆発的に人は集まりました。その芸能人効果をまた期待して芸能人を呼ぶということなんですけれども、芸能人の知名度に頼らなければお城まつりがだんだん廃れていくというこの現実を、しっかりと直視する必要があると私は今求められているのではないかと思います。

私は大多喜町に来て24年くらいになります。そのころは、農産物の直売もお婆ちゃんたちが何人か来てやっていたように覚えています。今回、今までと違って、先ほどの答弁によると、そういうのを復活させる方向で検討中だと。そのことについては私はいいことだと、もっと参加の縛りを緩くして、売りたい人が誰でも参加できるような取り組みをしてほしいと思うのですが、やはりすごいお金をかけて、実行委員会レベルでは当初予算で1,100万円、補正予算も入れると去年が2,200万円強、そしてもしかしたらことしは1,300万円を超えるであろうというお金が動きます。

町のほうからは補助金として、昨年が618万円、ことしもほぼ同レベルの補助金が出るだろうということを事前に伺いました。それは決して小さいお金ではありません。先ほど質疑の中でも吉野一男議員が費用対効果はどうなんだと。町の仕事というのは、町民に稼がせる、町民の稼ぐ能力を高めて町民に稼がせることだと思うんです。だけれども、答弁の中でもありました、日程が総元、西畑地区の地域のお祭りとバッティングしているので変更してもらえないかという意見も出たけれども、影響ないだろうという意見があつて。で、9月30

日、10月1日に投票で1票差で決まったというけれども、実行委員会の中で全町が本当に気持ちを合わせてやらなきゃいけない、地域の人にとっては大多喜のお城まつりよりも地域のほうが重要なのに、そのお城まつりの実行委員会が何とかなる、地域よりも地域を当てにしていない、そういう姿勢があるということも、さっきの課長答弁の中で明らかになりました。

そういう中で、私の友人たちにも、今回この補正予算でお城まつりの補助金が150万円計上されるんだけど、それはいいことだと言う人は1人もいませんでした。お城まつりのあり方を考えてくれ、できればいろいろ何人かあるんですけど、西畑、老川のほうで行く人というのは、子供がパレードに出るからだ。そうでない方の関心は本当に低下するばかりだと。お祭りを1回やってしまって、住民の中に何が残ったのか、残っているのか。そういうことも考えて、やはり湯水のようにお金を出していく、もちろん実行委員さんが大変な思いをして寄附金、500万円ぐらいの寄附金を集めて実施しているんですけど、そういう努力も実っていないんじゃないかという気がします。

お金はかけなくても、実のあるお祭りを希望して、私は今回この150万円というお金について賛成することができません。鳴り物入りで去年藤岡さんをお呼んだわけですけども、ことはさらに費用がかかっています。実行委員会におかれましては、より一層の経費削減を希望しまして、私の反対討論とさせていただきます。

○議長（野村賢一君） 次に、本案に賛成者の発言を許します。

2番志関武良夫君。

○2番（志関武良夫君） 私は、このお城まつりの実行委員会の問題についても、今各議員の皆さんの中からもいろいろな意見が出ました。聞いておりましたけれども、町挙げての一大事業ということで、私はこの件につきまして賛成の立場から討論させていただきたいと思います。

大多喜お城まつりは町の活性化並びに商業の振興を目的に開催され、今回で43回目を迎えます。この祭りでは武者行列やみこしが城下町に繰り出し、県内外から多くの観光客が来訪され、大多喜お城まつりも多くの方々に浸透してまいりましたところでございますが、これもまた各方面の方々のご協力のたまものと思います。また、町内においても小学生による武者行列の参加や保育園の発表や友好交流都市からも多くの方が参加され、毎年にごわいを見せており、町民にとっても大切なお祭りの一つになっていることは事実でございます。このようなことから、この補正予算も町の活性化につながるものであり、大多喜町といえお城まつりと言われるまでになってきていると思われ、町にとっても必要なものであると思

ます。

本案に賛成をするものでございますけれども、ただし、お城まつり実行委員会補助金を執行するに当たり、2点ほど申し添えさせていただきます。

1点目、お城まつりは大多喜町全体のお城まつりであるため、各地域との調整を図りながら、一人でも多くの方々が参加できることが望ましく、地域住民の方々の意見を聞き、調整を図りながら計画することを望みます。

2点目、お城まつり実行委員会補助金については、町民の税金も使っていくわけですから、その必要性を十分精査し、効果的な執行を図ることをお願いしたいと思います。

ほかの地域の方、中にはお城まつりに参加できない、先ほど各議員から言われておりましたとおり、そういう参加できない状況が生じているようですが、そういうことのないよう十分配慮するようお願いいたしまして、私の賛成討論といたします。

○議長（野村賢一君） ほかに討論ありませんか。

6番麻生剛君。

○6番（麻生 剛君） 私も志関武良夫議員と同じく、この問題は賛成の立場より討論に入らせていただきます。

今、町の中を見回しても、土日は確かに観光客が来ておると。しかしそれも私が当初見込んだ訪日外人がこれだけふえているにもかかわらず、なかなか欧米諸国あるいはアジア諸国、そしてイスラム圏の方々も来ていないという状況は、私が当初訪日外人の誘致を国の政策としてやってきたものとして、この当町がこのような形では、私はまずいと。そして今回大多喜町お城まつりの根幹をなすあの武者行列は、ある面で日本を代表するような、小田原のお祭りや箱根のお祭りや、あるいは日光のお祭りのような形をほうふつさせるような状況が演出できると思います。それは一流ではないけれども、1.5 流的な祭りまでは引き上げられる。それは関係各位の皆さんの努力が必要です。

ですから、私は常日ごろ言っておるように、先人に学べと、本多忠勝公、忠朝公に関しては、今は亡くなってしまいましたけれども、柳原にいましたオダカツトム先生のあの業績、ああいうものを、資料収集を一個人に任せていなくて、あの資料はどうなってしまったのか。そういうものも含めてお城まつりのあれに基礎に生かせる。そして、私が今言いましたように、今後大多喜が国際都市を目指すのであれば、町長が今頑張っている、あるいは関係各位の皆さんが頑張っている高速バスを、せっかくだから利用して、あちらから連れてくる。あるいは成田に行って連れてくると。その発想を持っていかないと、大多喜はただ単

なる地方の片田舎になってしまう。

私は金が集まらないというのは魅力がないから集まらないんですよ。ですから、課金システムを入れていく。それはいろんな方法があると思います。それはここで討論するよりも、また個々に執行部とのお話し合いの中でお伝えしていただきたいと思いますが、大多喜が片田舎になってしまった原因は、私たち町民もあるかもしれないけれども、一番の原因はやっぱりシンクタンクである執行部の皆さんの責任多大です。ですから、この予算に関しては、私は賛成します。そして、これを起爆剤として皆さん方はやっぱり町民の中から押し上がってくるものをもっと押し上げて、先ほど志関武良夫議員がおっしゃったように、全町一体となる祭りを演出していただきたい。

私は国際都市大多喜を目指す、その橋渡しは私やりますから、そんなわけで今回の賛成討論の立場より、速やかに決まったわけですから、あとポスター張り、それからチラシ配布、それからパンフレットの配布等を、皆さんこれから外に出ていこうじゃありませんか。東京駅にしても、どこに行っても、品川駅でもいいです。そうして汗をかいて、この町に1人でも2人でも多く持って行く。私どもはかつてそこにいる係長だった末吉議員と一緒に千葉のマリンスタジアムに行って、大鍋抱えて誘致したりいろいろやってきました。しかしこのごろ何か聞かないのでね、その辺を一緒になってやろうじゃありませんか。そのノウハウは私もあるけれども、そこにいる末吉昭男議員もある。そういう方々の力を一致団結していけば必ずすばらしい祭りになると思います。

以上をもちまして賛成討論の立場よりやらせていただきました。

○議長（野村賢一君） ほかにございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（野村賢一君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから議案第40号を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

○議長（野村賢一君） 挙手多数です。

したがって、議案第40号は原案のとおり可決されました。

◎休会について

○議長（野村賢一君） 以上で本日の日程は全て終了しました。

お諮りします。

本定例会は、議事の都合により、あす22日から9月30日まで休会したいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（野村賢一君） 異議なしと認めます。

よって、あす22日から9月30日まで休会することに決定しました。

◎散会の宣告

○議長（野村賢一君） 本日はこれをもって散会とします。

ご苦労さまでございました。

（午後 4時52分）

会議の経過を記載し、その相違ない事を証するため、ここに署名する。

平成29年9月26日

議 長 野 村 賢 一

署 名 議 員 吉 野 一 男

署 名 議 員 末 吉 昭 男